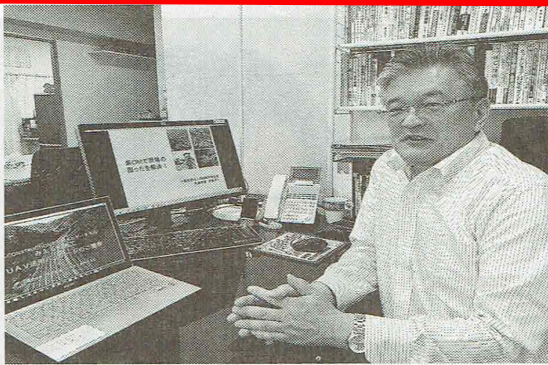




代表理事の齊藤氏

困りごとに見える化で答えます

「現場の困った見える化、C I Mで解決できる様に勉強・研究する会」。これを略したC I M解決研究会（C I M S O L）が15年4月に発足し、活動を開始した。建設事業全般にわたる課題をC I Mやi-Constructi onを活用して解決する方法を研究・実践するのが目的と。発足以来、毎月勉強会を重ね、関連情報を研究会に蓄積する活動が続ける。

一般社団法人として立ち上げた会の代表理事を務めるのは、ユタカ工業とマナブ測建（いずれも東京都北区）の齊藤孝一代表取締役。20代前半から作業員・重機オペレータを経て現場監督・施工管理として下水道工事を皮切りに、大手道路舗装会社やゼネコンの支援など、数々の現場

C I M解決研究会

に従事することで経験とノウハウを積み重ねてきた。そのついで培った人脈も生かしながら、「ハブ（中心）となつてすべての『困った』を解決できる存在になつてい

く」とC I M S O Lの設立を決断した。C I Mで用いる各種ソフトなどから「レベルに合わせて本来に使えるもの現場で困った時に、どこに

中小建設業の「駆け込み寺」に

だけを紹介して業務の効率化につなげ、C I Mを『楽々C I M』に変えていけるようにしたい」と齊藤氏。そのために、毎月の勉強会で大手ゼネコンなどの取り組みを聞かせてもらい、また、さまざまなソフトを検証する中で「営業上手な偽物を排除していく」（同）ことで真に必要なものだけを紹介できるようしていくという。

研究会のホームページは
<http://cimkaiteisu.jp/>

日刊建設工業新聞殿に第1回総会を取材いただきました

CIM 現場の課題解決へ

マナブ測建らが研究会

民間企業などをつくるCIM解決研究会(CIM SOL、代表理事・齊藤孝一)マナブ測建、ユタカ工業代表取締役)が発

足し、5月30日に東京都内で第1回総会を開いた

民間企業などをつくるCIM解決研究会(CIM SOL、代表理事・齊藤孝一)マナブ測建、ユタカ工業代表取締役)が発

足し、5月30日に東京都内で第1回総会を開いた

足し、5月30日に東京都内で第1回総会を開いた



ング、フルスケール、マナブ測建、ユタカ工業の6社。参事として天本俊正元建設省官房審議官、先端建設技術センターの緒方正剛氏が参画している。会の趣旨に賛同する会員を随時募集する。年会費は法人が10万円、個人が1万円。

総会で齊藤代表理事

は、「この会では、現場がどうすれば楽になるのか、中小企業がCIMを導入する場合、どのようなソフトを使えばよいかなどを議論し、情報を共有できるようにしていきたい」と述べた。今後、

会合を重ねながら、会員各社が持ち寄るソフトの情報やCIMの動向などを紹介していく。

5月30日の会合では、緒方氏がCIMの動向、フルスケールの木村房夫代表取締役が小型無人機

(ドローン)を用いた撮影と写真合成手法をレクチャーした。